

令和3年度 関東高等学校体育大会サッカーの部千葉県予選会 総評

今年度は、新型コロナウイルスの影響により変則的なレギュレーションとなった。千葉県高等学校新人大会が中止となり、代替大会として関東高等学校体育大会サッカーの部ブロック予選会が4月11日から開催され、予選を勝ち上がった16チームによる決勝トーナメントが令和3年4月29日から令和3年5月8日にかけて行われた。優勝は日体大柏高校、準優勝は八千代高校、3位は専修大松戸高校、暁星国際高校という結果になった。決勝トーナメントに出場した16チームは県リーグ1部、2部に所属するチームが多くを占めた。新型コロナウイルスの影響により、練習量が絶対的に不足していた中で、どのチームも自分たちの特徴を活かすためのチームづくりに多くの時間をかけたのではないかと想像する。また、トーナメントが進んでいく中で各チームが相手の良さを消すこと、またその中で自チームの特徴を発揮するために分析を行い、ベストな戦い方を選択できるよう準備をしているように感じる。

準決勝以降の傾向として、ボール奪取後はシンプルに前線にボールを供給し、縦に早い攻撃をするチームが多くみられ、攻守の切り替えが激しい非常にスピーディーな展開が特徴的であった。アタッキングサードではサイド攻撃を起点に相手が整う前に質の高いクロスをゴール前に供給し、決定機を何度も作り出す。その中でもカウンターだけではなく、ボールを奪った後に状況によって戦い方を変化させることができるか否かが今大会上位進出するための鍵となった。

また、セットプレーを契機とした得点が多く生まれ、キッカーの質も高い。セットプレーの守備に関してはチームによって様々な守り方を行っているが、相手に対して空中戦で競り負けない個の強さ、GKのクロスに対する判断の精度と正確な技術にはさらに磨きをかけたい。

そして、各チームの組織化された守備により、ゴール前の狭いスペースにおいてプレッシャーが厳しい。その中でも、ゴールを奪いに行けるストライカーの育成については今後も課題である。

昨今、全国的にスポーツ大会の中止や延期を余儀なくされるケースが相次いでいる。その中でも今大会が開催され無事終えられたことに、また、大会の運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、優勝した日体大柏高校、準優勝した八千代高校の関東大会での活躍を期待し、令和3年度関東高等学校体育大会サッカーの部千葉県予選会の総評とさせていただきます。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人